

伝灯奉告法要協賛 仏教壮年会連盟教区代表者参拝



第17号

2016(平成28)年
12月27日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 田仲隆行

「朋友」とは、同信のなかま。
2008(平成20)年4月の仏教
壮年会連盟発足にあたり、
仏社会員が力を合わせ、とも
に歩みを進めていこうという
願いから名づけられました。

式典

前門さまお言葉

10月22日(土)に開催されました「伝灯奉告法要協賛 仏教壮年会連盟教区代表者参拝」の式典に前門さまにご臨席賜りお言葉を頂きました。

皆さまこんばんは。伝灯奉告法要
にようこそご参拝になりました。

この機会に仏教壮年会連盟教区代
表者参拝が行われましたこと、たい
へんありがたく心強く存じます。

伝灯奉告法要記念行事ですので、
望ましいのは現職の門主がご挨拶に
出てくることですが、なにご
ん80日間の長期にわたるご法要であ
りますので、門主はご法要に専念す
るということになっておりまして、
時間外の行事はわたくしが出向かせ
ていただいております。

社会を担う壮年の方々が、み教え
を聴聞され、活動を展開してくださ
ることはたいへん心強いことござ
います。

社会の中心であるということは、
同時に一番社会の重みを感じられる
年代でもあると思いますが、ただそ
の重さを耐え忍ぶだけではなくて、
それを転換してより新しい道を開い

ていくことになれば素晴らしいと思
います。

そのためには、人間の煩惱、欲望
だけで解決しようとするのではなく
て、一歩越えた阿弥陀如来のまこと
のお心に照らして、新しい面を付け
加えていくということもぜひ考えて
いただきたいと思います。

壮年会活動は、朋友の輪を拡げる
ということが大事なテーマになって
いると聞いておりますが、ただ仲間
を増やすというだけにとどまらず、
現代社会のさまざまな手立てを活用
して、ネットワークを広げるとか、
人間関係を広げて精神的な支え合い
をするところまで育っていけ
ば、壮年会活動はより豊かなもの
になると思います。

新しい門主とともに今後の会の活
動を進めてくださいますよう期待い
たしております。
ようこそご参拝になりました。

第二十五代専如門主伝灯奉告法要並びに 仏教壮年会連盟教区代表者参拝に参加して

四州教区仏教壮年会連盟理事長 大宮健吉



肌に心地よい豊穡の慶びに満ちた
錦秋の最中、仏教壮年会連盟の教
区代表202名が、本山に参集し
て「第二十五代専如門主伝灯奉告法
要」に参拝いたしました。

新しい時代への期待感漂う中、古
来の伝統を綿々と受け継がれたご法



要や、平和を願うご門主の「念仏者
の生き方」としての映像に圧倒され
ました。

この度の伝灯奉告法要は、宗祖・
親鸞聖人があきらかにされた「浄土
真宗のみ教え」が、聖人から数えて
第25代となる専如ご門主に伝えられ



たことを阿弥陀如来の御前に奉告す
るとともに、この法要を機縁として、
お念仏のみ教えが広く伝わることを
願い、お勤まりになるご法要です。

この度の「伝灯奉告法要協賛 仏教
壮年会連盟教区代表者参拝」を機縁
に、教区で壮年会活動を推進する代
表者が本山に集い、ご門主の法灯継
承をお祝いするとともに、教区・ブ
ロックの垣根を越えて、全国のご同
朋・ご同行の集まりであるとの自覚
を深め、朋友の輪をより一層拡げる
との趣旨のもと、リーガロイヤルホ
テル京都で開催されました。

式典は、前門さまにご臨席いただ
きました。最初に仏教壮年会連盟会
長である石上智康総長のあいさつに
始まり、続いて前門さまからお言
葉(1頁に掲載)をいただきました。
その後記念行事として、連盟講師の
谷間徹誠先生よりご法話をいただき
ました。

懇親会では、講師師旭堂さくらさ



んに「若き日の親鸞聖人」と題して
聖人の人生を語っていただき、その
後の宴席では、各教区が持ち寄った
それぞれの国自慢の銘酒で花を添
え、最後に来年9月に仙台市で開催
される全国仏教壮年大会での再会を
期し、有意義な一夜を閉じました。

伝灯奉告法要

「自信教人信」に学ぶ

仏教壮年会連盟講師 釋 覚恵 (漢見覚恵)



平成26年6月6日、第二十四代即

如門主から第二十五代専如門主に法統が継承されてから2年あまり。浄土真宗のみ教えが広く世界中に伝わることを願い、伝灯奉告法要がいよいよ始まりました。1期8日間、10期80日間にわたり営まれる今回の法要。この間に、一人でも多くの方に御参りいただき、各々がわが身の上で大切なことを学んでいきたいと願っています。

この度の法要には、お勤めのために『奉讃伝灯作法』が制定されました。内容は、親鸞聖人750回大遠忌法要の際に制定された「宗祖讃仰作法(音楽法要)」の正信念仏偈と和讃・念仏が中心の構成ですが、最後

の「回向句」では、善導大師の『往生礼讃』のお言葉「自信教人信 難中転更難 大悲伝普化 真成報仏恩 (みづから信じ人を教へて信ぜしむること、難きがなかにうたたさらに難し。大悲をもつて伝へてあまなく化するは、まことに仏恩を報ずるになる) 浄土真宗聖典七祖篇註釈版 676頁」をお勤めします。

「自信教人信」という言葉は、「阿弥陀仏の本願の救いを自分も信じ、他人にも勧めること」で、善導大師以来念仏者の姿勢として示される言葉です。そしてこの言葉は、法統継承式の際のご門主のお言葉でも「善導大師(ぜんどうだいし)の「自信教人信(じしんきょうにんしん)」とい

うお言葉をあらためてわが身のこととして受け止め、南無阿弥陀仏と念仏申しながら、浄土真宗のみ教えを喜ぶ宗門の一員として、実践運動に取り組んでまいりましょう。」と述べられています。

今、あらためてこの言葉をご門主が提言してくださった意味をわが身の上に味わわせていただきますと、それは今日の私たちの教団の根本的な課題に、僧侶・門徒の念仏者としての自覚が不足しているという現実があるのだと思います。私たちの教団は、僧侶も門徒もその多くが先祖代々の「世襲」により相続されてきています。ところが、便利な「モノ」とのつながりを重んじる現代社会の中で、世襲は「かたち」としての僧侶と門徒の相続にとどまってしまい、「念仏者として生きる」ことが相続できていないように感じるので

す。

今回の伝灯奉告法要に合わせて、本願寺では10月1日から10日まで、両御堂の夜間ライトアップが実施されました。その際、参拝者に配布された葉には「他人の喜びを喜びとし、他人の悲しみを悲しみとする仏さま、慈悲の心、見返りを求めない。少しでも、仏さまのマネごとができたなら、スバラシイ」と、念仏者としての生きざまが示されてありました。

南無阿弥陀仏という、阿弥陀さまから私への常なる本願大慈悲のはたらき。そのはたらきを、苦悩の真只中にある私のいのちに疑い無くいただくとき(自信)、そのはたらきによりおのずと他人の苦悩を見逃していらなくなる新しい私に育てられ、また他人にも伝わっていくのです(教人信)。

この伝灯奉告法要を縁として、私たち僧侶・門徒が自身の念仏者としての姿勢を見つめ直したいものです。

『仏教青年連盟結成50周年記念 の集い』へのブース出展

京都教区仏教壮年会連盟理事長 長尾敬行



10月9日午前11時に第3連区の評議員6名が「仏教青年連盟結成50周年記念の集い」へ仏壮としてブース出展するため集合。記念品となる参加者お一人おひとりの顔写真入りの缶バッチづくりを急ぎよ応援することとなり、我々は第1連区参加者の写真撮影と2台の缶バッチづくり機を担当した。

ブースの配置は、メイン通路から少年連盟(輪投げ)、仏婦連盟(コーヒー)、ガールスカウト(利きお茶)、奥まったところに仏壮ブースがあった。田仲理事長持参の垂れ幕に青色の紙テープを貼り目立つようにしたが、ピンクのスタップジャンパーを着用した仏婦やノボリを設置したガールスカウトと比べると少々地味であった。

ブースまで来る方が少ないため、「仏教壮年会をつくろう」のパンフレットにお菓子(大阪ちよ子・高瀬舟羊羹)を添え、街頭活動のようにして概ね200名の参加者に手渡し、PR活動を終えた。

乳幼児を連れた参加者もおられ、み教えを子に伝えることを実践されている微笑ましい姿に触れることができた。



本願寺沖繩別院

落慶法要について

沖縄特区仏教壮年会連盟理事長 屋我真也



6月18日、19日に沖縄別院にご門主をお迎えして「親鸞聖人750回大遠忌法要並びに本願寺沖縄別院落慶法要」をお勤めいたしました。2日間にわたりご門主をはじめ沖縄特区、九州地区、全国からのご来賓の方達と共に特区の念願で有った沖縄別院建立を祝い、喜びました。

(満堂となった本堂からお念仏の声がこぼれる中、ご法要が始まりました。

記念行事では、和やかな雰囲気でご門主、随行者ご一行、来賓の方達も一緒にパーランクー(ミニ太鼓)を打ち鳴らし、参加者全員でカチャーシーを踊りました。ご巡回、ご参拝ではご門主と直接お話が出来るとても有り難い機会を設けて頂いて私の一生の思い出になりました。

実はこのご懇談のご縁で一緒になった僧侶の方のご好意で、仕事でなかなか法話が聴けない私の為に夜仕事が終わった時間に合わせて頂いて二対一の法座を開いてくれています。沖縄別院建立、ご門主とのご歓談がもたらしてくれた有り難いご縁です。



被災地はいま〜熊本〜

「あの日から半年」

熊本教区仏教壮年会連盟理事長 荒木勝也



4月16日夜中に突然の激しい衝撃、仏壇が布団の上に倒れ、ピアノが踊り、本棚箆笥が倒れる音、停電で真っ暗闇、車中泊の朝、家の中も外も足の踏み場もない状態。

3歳の孫も昼間は明るく振る舞っていますが、夜は怖くて今でもパパとママにしがみつこうようにして寝ています。小さな余震でもすぐにわかるので少しの揺れでも顔の表情が変わり黙り込みます。

ご承知の通り最大震度7に2度も見舞われ、気象庁も「想定外」と認めた事態。誰もが本震と思った最初の揺れは前震と修正され、さらに襲った凄まじい激震。前震後自宅に帰り本震で亡くなった犠牲者も少なくなかった。半年経った今も強い余震が変わらず続いている熊本です。「あの日」から熊本は崩れた日常を取り戻す毎日へと一変しました。

全国の宗門関係者の皆様、仏社の会員の皆様、大変ご心配をおかけし



震災直後の益城町 平成28年4月

言葉では言い表せない程の多くの物心両面の支援を頂きましたこと、深く感謝し改めて御礼申しあげます。お寺と私たち門徒の再建の為に、まだまだこれからも変わらぬご支援をお願いいたします。地震の爪痕は生々しく、それでも

被災者は日常への一步一步を歩み動き始めています。歩みを止めることの怖さを誰もが感じているし、目の前のガレキの姿を見て「がんばろう」と「心のくじけ」が交互に見え隠れしています。今回の地震が比較的浅い所で起きているため、揺れが大きいく家屋被害がこれまでの地震以上に多く起きています。

震度7を2度観測した益城町では二次被害の恐れがある家屋は優先的に解体が進められていますが、多くは半年前と変わらない状態です。熊本県では2万軒以上の申請がある全半壊の家屋で公費での解体

が2割弱程しか進まず、全体完了は数年先で新居を建て

て、次の新しい暮らしを模索する被災者の生活再建に大きな足枷となっています。

6月から仮設住宅が完成し、人があふれる避難所から抽選で選ばれた高齢者や障害者などの「優先者」の入居が始まりました。「地震でいじめられ、避難所で苦しみ、仮設で島流し」と被災者のつづやき。仮設に入居して、将来への不安から気分が落ち込み、引きこもりがちに



震災直後の避難所(益城町) 平成28年4月

なり、アルコールに頼り、誰にも看取られず亡くなる「孤独死」が現実に出ています。熊本教区「御同朋の社会をめざす運動」では《重点プロジェクト》の一環として仮設団地での「茶話会サロン」を実施致します。私たちの祖先は百年二百年のスパンで大きな災害を乗り越えてきました。私たちも今その力を次の世代に伝えてゆく責任を負います、お念仏とともに。

「仙台さま来てけさいん」

東北教区教務所長

本願寺仙台別院輪番

東日本大震災東北教区現地緊急災害対策本部長

宮川 善裕



東日本大震災の発生から5年8カ月が経過しました。その間の長きにわたり、全国の仏壮会員の皆さまには、物心両面なる温かいご支援を頂戴いたしましたこと、この場をお借りし、厚くお礼申しあげます。

東北教区現地緊急災害対策本部(東北教区災害ボランティアセンター)では、全国各地のボランティアの皆さまのお力添えをいただきながら、被災者支援活動を継続しています。

『にしほん(西本願寺)さんのお茶っこ』と親しまれている仮設住宅集会所(名取市)でのお茶会や、本願寺仙台別院「教化センター」を会場にした各種サロンには、全国より届く支援物資(お茶菓子)を参加者に提供しています。各地のご当地お菓子はいつも好評で、にぎやかな交流には欠かすことのできないものとなっています。引き続き、支援物資にご協力くださいますようお願いいたします。

また、明年9月2日(土)には、3年に一度の全国仏壮大会が、第1連区担当のもと、東北教区(仙台市)にて開催されま

す。「ともにいのち輝く朋友の笑顔」の大会テーマのもと、震災復興に向けた歩みを支えてくださった多くのご支援に対し、感謝の思いを伝える場として仏壮会員の皆さまを笑顔で仙台にお迎えいたします。これまでの開催担当教区に比べ、単位数の少ない当教区には力不足で、ご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、文字通り「笑顔」溢れる大会にするため、現在準備を進めています。仏壮会員の皆さまには奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。



定禅寺通り(東北大会会場正面)

◆本年度新規単位登録名簿

2016(平成28)年4月1日～12月1日

教区	組	寺	単位会名
北海道	上川南	慶雲寺	慶雲寺真和会
東北	相馬	勝縁寺	勝縁寺仏教壮年会
石川	鳳珠	光琳寺	光琳寺仏教壮年会
和歌山	和歌山北	浄源寺	浄源寺仏教壮年会
大阪	阿倍野	宣光寺	宣光寺仏教壮年会
兵庫	阪神南	西要寺	西要寺仏教壮年会
安芸	賀茂東	正覚寺	正覚寺仏教壮年会
安芸	志和	善正寺	善正寺仏教壮年会
山口	佐伯西	西蓮寺	西蓮寺仏教壮年会
山口	熊毛	来迎寺	来迎寺仏教壮年会
山口	美祢西	西宝寺	西宝寺仏教壮年会
福岡	上野	光宗寺	光宗寺仏教壮年会
福岡	那珂	光行寺	光行寺仏教壮年会
福岡	志摩	浄光寺	浄光寺仏教壮年会

登録単位数 2583単位

朋友—浄土真宗入門のてびき—

● 価格 **864円**(税込)

● 本願寺出版社
(ブックセンター)等
にて販売

※発送も可



© 2015(平成27)年2月リニューアル